

[第31回]



Science.
Value.
Life.

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 **藤井 宏記** 氏

お客様の視点でお客様とともに 一歩先の未来を実現します ～プラント価値を上げる「KAITEKI工場」をつくる～

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社は、1957年に、三菱化成工業株式会社の事業所の保全工事を行う帆柱工業株式会社として設立され、その後様々な組織改編がなされた後、2017年4月に、三菱ケミカルエンジニアリング株式会社としてスタートした「化学、合繊、食品、医薬品、情報電子、物流システム、環境、エネルギー等各種産業分野において、プラントライフサイクルの各フェーズにわたるエンジニアリングサービスを、内外のお客様に提供している」企業です。

近年の同社の事業実績は好調を継続しており、2018年度から2021年度までは、毎年過去最高益を更新し、2022年度も、過去最大の受注高である約1,300億円（うち、外販は約950億円）を達成した結果、2023年度は過去最高の売上高及び利益を予算化しています。

こうした好業績を達成し続けられる秘訣は何か？

「製造会社を母体としたエンジニアリング会社（オーナーズエンジニアリング会社）ならではのプラント運転に精通した経験と技術を基にお客様の最良を追求できること」「多種多様なプラントエンジニアリング経験により幅広い分野でのノウハウを生かした対応が可能なこと」「産業構造の変化に伴い、石油化学から機能商品分野に重点をシフトしていること」「強みであるエンジニアリング技術にGX、DXを掛け合わせた商品・サービスを提供していること」などが、同社の好調の要因として挙げられると思います。

今回のインタビューでは、代表取締役社長の藤井宏記様から、「お客様の生産プロセスや設備を理解し踏襲するだけでなく、現状にとらわれない発想で将来にわたり長く企業価値の向上に寄与する」という同社の事業戦略について、詳しく語っていただきました。



オーナーズエンジニアリング 会社の強み

— 御社のWEBサイトを見させていた
だと、「オーナーズエンジニアリング
会社ならではの強み」ということが
記載されています。始めに、この点に
ついてご説明いただけますか。

藤井 オーナーズエンジニアリング会社
は、プラントオーナーの生産技術の一部
の機能を代行するものですので、かなり
初期の段階からプラントオーナーと
チームを組んで、プラントに関する各種
課題に取り組んでおります。当社につい
て言えば、三菱ケミカルグループの設備
技術部門（エンジ機能分社）として、
長年にわたりグループ内各社と人材交
流・技術共有を行い、研究開発機能も
連携してまいりました。一般的に、
EPC業務を請け負ったエンジニアリン
グ企業は、「建設して引き渡したら、後
はオーナー任せ」ということになりま
す。他方、当社は、建設して引き渡した
後も、プラント情報、運転情報、メンテ
ナンスの履歴、さらには様々なトラブル
情報などをプラントオーナーと共有し、
オーナーサイドと一体となって解析しつ
つ次にどう生かすかということを常に
行っています。したがって、プラント
オーナーの立場に立って、生産設備の
建設やオペレーションに関わる中でノウ
ハウを蓄積しており、これが当社の強み
となっております。外販においても、満
足いただける設備やプラントを完成させ
るだけでなく、お客様の立場に立って、
計画通り生産されることを目標にしてお
ります。

重点を置く産業分野 ～食品～

— なるほど。御社は、三菱ケミカル
グループ内の企業と一体となって事業
を行っている経験と実績があるからこ
そ、グループ外のお客様にも、優れた
商品・サービスを提供できるのです
ね。具体的な事例としては、どのよう
なものがあるのでしょうか。



日清医療食品株式会社様
ヘルスケアフードファクトリー関東
国内最大級の病院・介護施設向けの
セントラルキッチン

藤井 当社の事業の柱の一つとなってい
る「スーパーマーケット及びファミリ
ーレストラン向けのセントラルキッチン
システム」がその具体例になるかと思いま
す。当社では、前身企業の一つである三
菱油化エンジニアリング株式会社時代か
ら、数十年にわたり、多くの食品関連プ
ラントの建設及び運営に関与してきた実
績を持っています。豊富な実績と培った
ノウハウをベースに、初期の構想段階か
ら参画させていただいて、お客様の立場
に立って具体的提案を行っています。

日本の人口は現在減少していますが、
世帯数は2025年まで伸びていくと考え
られています。日本人のライフスタイル
としても、共働きが主流となっております
し、スーパーマーケットが提供する加
工食品やファミリーレストランでの食事
の需要は今後とも大きい、と思っていま
す。他方、スーパーマーケットやファミ
リーレストランでも人手不足は深刻であ
ることから、集中的に食品を加工し各店
舗に効率よくデリバリーする「セントラ
ルキッチン」という仕組みは、効率性だ
けでなく食品衛生の観点からも優れたシ
ステムであり、この事業は、今後とも堅
調に推移していくものと考えています。

重点を置く産業分野 ～メディカル～

— 食品以外に、御社の長年の経験と
実績が生かされる分野はございますか。

藤井 メディカルも、当社の長年の経験
と実績がビジネスの基礎となっている
分野だと思います。20年以上前の話に



第一三共ケミカルファーマ株式会社様
高薬理活性医薬品製造設備
最新の封じ込め技術で原薬生産工場の
拡張を実現

なりますが、医薬品メーカー様が、「設
備保全業務のアウトソーシング化」を検
討されるという時代がありました。当社
では、その当時から日本有数の医薬品
メーカー様からの委託を受けて、設備保
全の仕事をさせていただいており、お客
様と一体となって医薬プラント設備の保
全の深化と改善を図ってまいりました。

最近では、仮想空間内に物理設備の環
境を再現する「デジタルツイン」の有
用性が認められてきており、ベーシッ
クマテリアルを製造するプラントに導
入する動きが多いのですが、当社では、
医薬品メーカー様の製造設備を3D化
し、様々なセンサーをつけて運転情報
を吸い上げ、現在の運転状況を可視化
する、という新たな試みを始めていま
す。

重点を置く産業分野 ～リチウムイオン電池、 半導体～

— 食品、メディカル以外に重点を置
く分野は、どのようなものがあるで
しょうか。

藤井 今後成長が見込まれる分野に事
業の重点を置いていこうと考えていま
す。具体的には、食品及びメディカル
以外に、EV/モビリティ、半導体を含
めたデジタルといった分野に関わるビ
ジネスを考えています。

EV/モビリティについては、車載用リ
チウムイオン電池設備に焦点を当てて
います。リチウムイオン電池は、製造
する工程で取り扱いの難しい溶剤を使
うのですが、それを外部に出さず、精製
してリ

ユースするシステムをつくっています。三菱ケミカルでは溶剤を作っておりますので、精製、蒸留、加熱、不純物処理といった様々な工程の経験、ノウハウを保有しております。したがって、リユースしても製品に影響が出ないようなコントロールができるノウハウは、世界一だと自負しており、海外のお客様を中心にビジネスが拡大しております。

半導体に関しては、三菱ケミカルグループが半導体用のグレードの高い硫酸スラリー用のコロイダルシリカなどを作っているため、物性的なノウハウやそうした薬品を取り扱う設備の洗浄ノウハウなどを蓄積していることが、他社にはない当社の強みだと思っております。

オーナーズエンジ事業と 外販事業のバランスを取る

— 今までお話を伺っていると、御社の強みは、三菱ケミカルグループの一員であることがよく分かりました。

藤井 確かに、そうした面はあると思います。その上で、オーナーズエンジと外販の両輪で運営していること、事業の間口が広いことが、当社の特徴であるとともに、強みになっていると思っています。三菱ケミカルグループは、化学、情報電子、医薬、産業ガス等各種産業分野に関わるビジネスを行っており、その結果、当社も様々なプラントに関係する仕事を行ってきました。プラントの種類は違っても、要素技術まで分解していくと、共通する部分がかなりあります。したがって、石油化学プラントで培ってきた要素技術が、別の分野のプラントで生かされるという例や、他方で、新たな用途に対応するために、従来技術を組み合わせたり、掛け合わせたりという発想が生まれるという例も数多くあり、間口を広げて事業を行ってきたことが、当社の社員の経験値を上げることに役立っている、と思います。

— 三菱ケミカルの仕事と、グループ外のお客様の仕事の割合は、どのようなものでしょうか。

藤井 ワークボリュームで見ますと、三菱ケミカルグループ内外の仕事は、ほぼ半々です。オーナーズエンジで三菱ケミカルグループ内企業の生産性向上に寄与するとともに、そこで蓄積した技術やノウハウを使って外販事業を行い、持続的に発展するための安定的な収益を上げ、さらに、コスト競争力を含めたエンジニアリング技術を磨き、オーナーズエンジに還元する、という好循環の実現を目標にビジネスを展開しています。

KAITEKI工場で プラント価値を上げる

— 御社のCorporate Profileを見ていたところ、製造プロセスの目指すべき方向性として「KAITEKI工場」という言葉がありました。これについて、ご説明いただけますか。

藤井 「KAITEKI」は、三菱ケミカルグループが実現を目指しているオリジナルのコンセプトです。サステナビリティを経営の概念の中に織り込むというもので、SDGsが言われ始めるよりずっと前、10年以上前から掲げております。内容としては、生産プロセスの改革を通して、「人と地球に優しく」という環境軸、「製品価値の向上で顧客満足へ」という製品価値軸、「収益を最大化しさらなる挑戦へ」という収益軸の3軸のベストバランスを目指す、と

いうものです。工場そのものが、地球、そこで働く人、地域の皆様にとっても心地よい、KAITEKIである、ということを目指しています。

— SDGsを先取りする経営方針を打ち出しておられるんですね。

社風は「自由闊達」

— 御社の社風や人材育成について教えてください。

藤井 社風について一言で言えば、「基本的には、皆自由闊達に自分の思ったことに取り組む、そういうことを許す」ということだと思います。私自身、社長としてこの社風を継続していきたいと思っています。

人材育成については、当社は、オーナーズワークと外販という二軸の特徴の異なるビジネススタイルを持っていますので、多様なプロジェクトを経験させることにより、キャリアアップを図っていきます。例えば、オーナーズワークで、R&D部門の方と協力して生産プロセスの改革を経験した後、外販事業で、他社との競争の中で、どうやってプロジェクトマネジメントの効率を上げていくか、という経験を積んでもらっています。

また、「新・働き方改革」ということで、制度や仕組みを見直す一方、ボトム

藤井 宏記 (ふじい ひろき)

1962年兵庫県に生まれる。

1986年慶應義塾大学経済学部卒業とともに、三菱油化（現三菱ケミカルグループ）に入社。2007年三菱ケミカルエンジニアリング調達本部海外調達室長、マーケティングセンタービジネス開発推進室長、営業本部企画管理室長、プロジェクト第1本部企画管理室長、プロジェクト第2本部環境ソリューション事業部長、取締役プロジェクト第2本部環境ソリューション事業部長、取締役プロジェクト第2本部長を経て、2023年4月代表取締役社長に就任、現在に至る。



アップ活動による「働きがいの向上」や「業務の改革」といったことも進めています。女性活躍にもかなり以前から取り組んでいます。こうしたことを実現するためには、DXの導入が不可欠であり、スマート・エンジニアリングの各種ツールの利用の拡大や、オフィス業務におけるデジタル・ツールの運用を始めています。

野武士のような社員に あこがれて入社

——最後に、藤井様ご自身のことをお伺いしたいと思います。三菱油化株式会社（現：三菱ケミカルグループ）に入社された理由は何だったのでしょうか。

藤井 私は経済学部出身で、当時は金融系が一番の気で、私も就職活動の時は、金融系の会社を訪問していました。その時に感じたのは、「金融系の会社の方々は、『ジェントルマン』だな。自分に合うだろうか」ということです。たまたま東京駅の正面にあった三菱ビルに三菱油化株式会社という会社があるのを見つけ、飛び込みのような形で訪問しました。当時、同社は、少数精鋭の

採用活動をやっている、採用人数も非常に少なかったのですが、金融系のジェントルマンに対して、三菱油化株式会社の方は、野武士的な感じを受けました。「これは面白いかもしれない」と思い、入社を決めたのです。したがって、入社当初はエンジニアリングというものを全く知らなかったのですが、茨城県の鹿島事業所でエチレンプラント建設に係る資材調達の仕事を経験したのを皮切りに、エンジニアリングの仕事が面白くなり、現在もエンジニアリングの仕事を続けています。

——今までに、自分でも誇れる仕事と思うものはありますか。

藤井 少しご趣旨とは違うかもしれませんが、「新規事業開発室」の室長時代に行った仕事は、自分でも大変だったが面白かった、と思っています。当時の社長から、新規事業開発室長として、「今のビジネスの延長線上でない新規事業を考えてみてくれないか」と言われて、最初の3カ月ぐらいいは何をするか大変悩みました。結果的には、「バイオメディカル」という概念を見つけ、今後バイオ技術がメディカルや食品分野に生かせるのではないかと考えました。

15、6年程前のことで、当時は芽が出なかったのですが、最近になって、当時の技術開発がベースになりながら、代替食品の製造に生かせる時代となったことは、感慨深いものがあります。

——最先端の研究というのは、その時はビジネスにならなくても、何年後かに花開くこともあるのですね。本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。

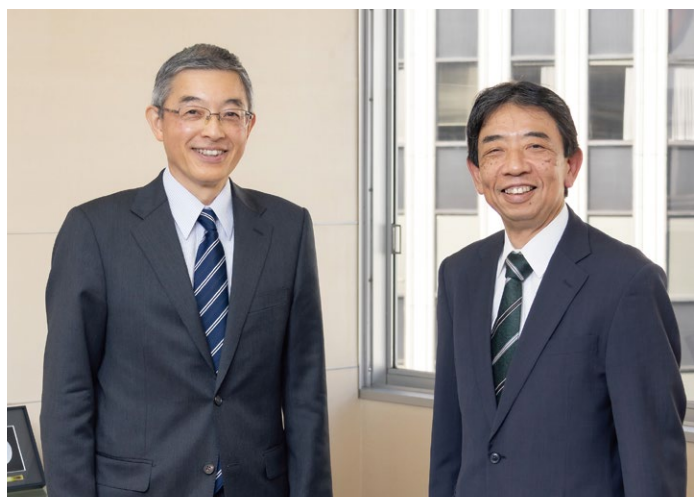


インタビュー後記

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社は、大変幅広い事業分野をお持ちで、正直に言って、何をお伺いすべきか、藤井宏記様にお会いするまで迷っておりました。しかし、藤井様は、素人の私にも分かるように、事業の重点をご説明くださいました。このインタビュー記事に書いたこと以外でも、感心させられることはあったのですが、紙面の関係で省かざるを得ませんでした。

藤井様は、明るくお話をされる方で、絵に描いたような「慶應ボーイ」だなぁ、という印象を受けました。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



企業データ

社 名：三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
事業内容：化学、合繊、食品、医薬品、情報電子、物流システム、環境、エネルギー等各種産業分野における各種エンジニアリング事業、設備管理事業およびメンテナンス事業
設 立：1957年12月
所 在 地：東京都中央区日本橋本石町1-2-2
従業員数：約1,200名(2024年1月現在)
ホームページ：<https://www.mec-value.com/>

